

第12期 第2回 豊中市廃棄物減量等推進審議会 議事録

【日時】令和3年(2021年)1月20日(水)15時00分から16時30分まで

【場所】豊中市立生活情報センターくらしかん 3階体験学習室

【出席委員】渡邊委員 花嶋委員 小島委員 國分委員 西村委員 日名委員 下村委員
高島委員 中澤委員 吉田委員 遠藤委員 米田委員 榊原委員 重長委員
(15名中14名出席：有効に成立) ____は、WEB参加

【傍聴者】0名

【事務局】糸井、甫立、道端、吉村、溝口、中川、澤田、永富、渡邊、内田、鈴木、中村、藤田 ____は、WEB参加

【オブザーバー】飯野 (豊中市伊丹市クリーンランド)

【配付資料】

- ・第12期第2回豊中市廃棄物減量等推進審議会 (WEB会議) 議事次第
- ・第12期豊中市廃棄物減量等推進審議会委員名簿 (新)
- ・令和元年度 (2019年度) 事業等報告書確定版 (案)
- ・ハッピーごみ^{びん}減量通信 Vol.3
- ・豊中市廃棄物減量等推進審議会 WEB開催マニュアル
- ・WEB会議用挙手用紙等

1. 開会宣言

※会長との通信が安定しないため、進行については副会長が行う。

2. 出欠確認

本日の会議は公開とする。傍聴希望者は0名である。委員15名の内、14名が出席のため過半数に達しており、審議会規則第6条により本日の会議は有効に成立している。

3. 会議録署名委員の指名

議事録署名委員については、西村委員と米田委員に担当していただく。よろしく願います。

4. 委員紹介

交代のあった委員の自己紹介。

5. 審議

案件 第4次豊中市ごみ減量計画の進行管理について

○副会長

それでは審議案件に入る。案件「第4次豊中市ごみ減量計画の進行管理について」事務局から説明をお願いします。

○事務局

「資料1 令和元年度（2019年度）事業等報告書（確定版）（案）」に沿って説明。

○委員

新型コロナウイルスの影響により家庭系ごみ量は増加している。この増加分は、減量計画に影響を及ぼすと思われるが、これは一過性のものとして捉えているのか、それとも恒久的なものとして捉えているのか。

○事務局

家庭系ごみ量については、人口増による増加もあるが、主な要因としては、新型コロナウイルスの影響によるものだと考えている。昨年度と比較すると、今年度の4月～7月は増加しており、それ以降は横ばい傾向である。緊急事態宣言が出ていた4月、5月は、出前や宅配サービスなどにより増加しているものだと考えている。

○委員

ハッピーごみ減量通信1ページの収集車やクリーンランドにおける火災事故増加に関する記事について、豊中市では、スプレー缶は穴を開けずに排出することになっているが、市民に協力を求め、スプレー缶に穴を開けて排出してもらうようにすれば、火災事故の防止につながると思う。

○事務局

環境省からの通知でもあるように、スプレー缶に穴を開ける際に火災事故が発生する可能性があるので、排出する場合は中身を使い切って、スプレー缶に穴を開けずに排出していただくようお願いしている。

○委員

ごみ減量計画の進捗状況について、リサイクル率は横ばい傾向であるものの、再生資源の量は減少している。これは新聞・雑誌などの紙類が減少していることだが、今後も紙類は減っていくと思われる。2027年度に掲げる目標を項目ごとに見直す必要があるのではないか。

○事務局

デジタル化による紙量の減少に伴い再生資源の量は減少しているが、リサイクル率については、ごみの総量が減少したことにより横ばい傾向となっている。減量目標の見直しについては、いただいた意見を踏まえ、2024年度のごみ減量計画の中間見直し時に検討が必要だと考えている。

○委員

新型コロナウイルスの影響により在宅時間が長く家のものを整理し処分するため、ごみの量が増えており、可燃ごみの中には衣類等が多く含まれている。衣類は可燃ごみで排出するものと再生資源で排出するものに分かれているが、分別せずにすべて可燃ごみで排出する人が増えているように思うので、再生資源を適正に分別排出することが重要だと思う。

○事務局

新型コロナウイルスの影響により今年度9月まで「紙・布」の日に出す古布類の排出を控えていただくよう市民に周知していた。10月からは通常どおりの回収となっているが、その影響が残っている可能性があるため、適正に分別排出していただくよう周知していく。

○委員

まず、年末年始の可燃ごみの収集について、コロナ禍のなか滞りなく収集していただきありがたく感じている。11ページの家庭系ごみ1人1日当たり量について、私は生ごみをたい肥化しているが、環境的にできない方もいると思われる。以前、古紙のリサイクル処理が滞っていることを製紙会社の方に伺ったが、雑がみを積極的に分別することは重要である。豊中市では、雑がみを再生資源として回収しているの、さらに周知徹底すれば、可燃ごみが減少すると思われる。雑がみの分別袋を配布するなど周知に力を入れていたように思うが、現在はどうか。

○事務局

雑がみ袋については、引き続きイベント等で配布をしている。紙類の分別の徹底について、昨年度実施した家庭系ごみの組成調査の結果を踏まえ、ハッピーごみ減量通信等を通じ、適正な分別の周知徹底を図っていく。

○委員

事業系ごみ量は順調に減ってきているとのことだが、令和2年度の見込みとして、事業系ごみは減少しているのか。

○事務局

4月から12月までの速報値によると、事業系ごみ量については、昨年度と比較して約9%の減少となっている。これは新型コロナウイルスの影響によるものと思われる。参考に、家庭系の可燃ごみ量については、昨年度と比較して約2%の増加となっている。不燃ごみ量については12%増、粗大ごみ量については15%増となっている。また、再生資源については、10%増となっている。

○副会長

事業系ごみ量の減少について、新型コロナウイルスの影響により事業活動が鈍化したことが要因ではないか。

○事務局

今年度の事業系ごみ量の減少要因は、新型コロナウイルスの影響が多にあったと思う。月別で見ると4月、5月は18%減少している。10、11、12月は約9~10%の減少となっている。顕著に新型コロナウイルスの影響が出ていると思われる。

○委員

14ページの環境学習の充実について、昨日ショックなことがあった。自転車で川沿いを移動しているときに、前を走っていた若い男の子たちが、川に向かってファーストフードのジュースなどの紙コップを投げ捨てていた。川はごみ箱じゃないと思い、信じられない光景だった。小学校・認定こども園については環境学習を実施されているが、中学校や高校についてはどうか。

○事務局

中学校の環境学習について、ここ数年実施していないのが現状である。小学校4年生時に環境学習を実施しているので、その子たちが中学生・高校生になっても、学んだことを忘れないような環境学習に努めていく。

○副会長

その他、意見はあるか。意見等がないようであれば、次にいきたいと思う。

6. 報告

○副会長

報告案件の「その他」について事務局から説明をお願いする。

○事務局

「ハッピーごみ減量通信 Vol.3」（初稿版）について説明。

○委 員

紙面のサイズはA4サイズか。

○事務局

実際のサイズはタブロイド判となっている。

○会 長

17ページの小型充電式電池を使用した製品等についての説明だが、修正をお願いしたい。2行目の中ほど、「取り外し可能な小型充電式電池については、水銀使用廃製品の回収ボックスへ投入してください。」と記載しているが、充電式電池が水銀電池であると勘違いするので、正確に記載していただきたい。

○事務局

市民の皆さんにわかりやすいように文章は修正する。

○会 長

わかりやすく修正していただきたい。また、市が回収するのか、民間で回収するのかわかりづらい。理想的には、行政が間に入り回収した方がよい。

火災事故について、これだけ起こっているとは驚きである。以前は1週間に1回くらいだったと思うが、現在は毎日2件くらい火災事故が起こっているのか。

○事務局

クリーンランドでは、リサイクルプラザが稼働した平成24年度は火災検知件数が1件だったが、平成25、26年ぐらいからは、充電式電池が原因と思われる火災検知件数が増えてきた。昨年度は、充電式電池を原因とする火災検知件数は584件であった。今年度は12月までで、すでに612件の火災検知が起きている。原因の内訳は充電式電池が541件、スプレー缶が1件となっており、機器停止の総時間が126時間になっている。機器の損傷はさることながら、処理計画にも大きな影響が生じている。

○会 長

想像していたとおりである。感染性廃棄物の問題もさることながら、これだけ充電式電池の回収先がない状況で、大きな事故が起きたら大変である。このことから、火災事故の記載について、枠を大きくとる必要はないが、正確な記載にすべきである。

○委員

コロナ禍のなか、ごみの収集を滞りなく行っていただきありがたく思う。火災事故がここまで増えているのは知らなかった。2点教えてほしいことがある。火災事故は、可燃ごみまたは不燃ごみで起きているのか。事故が起これば、収集車が使用できなくなった場合に1件当たりどれくらいの税金が投じられているのか教えていただきたい。

○副会長

資料に記載された火災事故件数は、クリーンランドにおける火災事故件数か。また、収集車の状況はどうか。

○事務局

17ページのグラフは、クリーンランドにおける火災事故件数である。収集車の火災については、不燃ごみを収集の際に誤って排出されている充電式電池やスプレー缶などが原因で火災事故が起きているのが現状である。

○副会長

火災事故は、可燃ごみまたは不燃ごみで起きているのかという質問に対してはどうか。

○事務局

火災事故は不燃ごみの収集時に起こっている。件数は、年間2～4件くらいだったと思う。

○副会長

火災事故でどれくらい費用がかかっているのかも教えていただきたい。

○事務局

現在、不燃ごみの回収は、委託業者に委託しているので、火災事故に係る費用については不明である。

○委員

委託業者が保険に入っていて、火災事故が起これば、損害がでた場合は保険で補われているのか。

○委員

豊中市の委託業務を請け負っている。昨年、一昨年と何度も収集車から出火した。1度は収集車が全く動かなくなるほどの火災であった。火災事故が起きた場合、罹災証明がでるので、火災保険から修理代が支払われる。収集車は約1,000万円する。修理代は火災保険から支払われるが、修理が終わるまで代車が必要なので、費用がかさむ。また全ての収集車に火災保険をかけているわけではない。

○委員

火災事故が増加していると記載があるが、それが人命にかかわったり、収集可能車両が一時的に減ると市民生活に影響を及ぼすので、火災事故の切実さがより伝わる文言にした方が良い。

○副会長

いただいた意見を参考にしていきたい。

その他、意見はあるか。意見等がないようであれば、会長に最後の締めをお願いする。

○会長

副会長、進行していただきありがたく思う。

平成2年頃ぐらいから廃棄物処理法の大幅な改正があり、ごみを減量するために資源化リサイクルをする流れでやってきた。資源化の推進は制度上続いているが、リサイクル率や残さをどう考えるかなど色々とはころびが出てきている。皆さんからは、生活に根ざした疑問が出ているが、全体を見るとごみ処理の在りかたについて、今一度見直す時期にきているので、皆さんと一緒に考えていきたいと思う。

予算的なことで申し上げますと、税収は落ちると思う。ごみ処理のような市民サービスに多額の費用を投じることには批判的な意見がある一方、他の委員からの指摘があるように火災事故など安全性の問題点もある。低炭素・脱炭素社会の実現に向け、石炭や石油をいつまでも使っていくのかということやスプレー缶の穴開け問題のように、国が指針等を定め、先導していくことは時代遅れになってきていると思う。

スプレー缶については出来る限り穴を開ける方が良いので、開けなさいとはいかなくても、開けたほうが良いということを自治体から発信しても良いと思っている。先進自治体である豊中市として、一步先を見据えても良いと思う。

以上をもち、本日の審議会は閉会とする。

○事務局

次回の審議会は、7月頃に開催を予定している。日程については、改めて連絡させていただく。

お忙しい中ありがとうございました。

6. 閉会